

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02413

研究課題名（和文）戦前期カナダ日系移民の文学環境の研究 エスニック紙『大陸日報』文芸記事を読む

研究課題名（英文）A Study of the Literary Environment of Prewar Japanese Immigrants in Canada : Reading the ethnic newspaper "Tairiku Nippo" literary article

研究代表者

日高 佳紀 (Hidaka, Yoshiki)

佛教大学・文学部・教授

研究者番号：00335465

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦前期カナダの日刊エスニック新聞『大陸日報』の文学関連記事を読み解くことと、同時期の日系移民コミュニティの調査を合わせて行い、文学研究の方法論を用いた資料分析によって、日系カナダ移民史研究の新たな領域にアプローチすることを目指した。『大陸日報』記事の調査分析はある程度進められたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の余波で現地調査を中断、予定していたワークショップ等の開催も見送る事態となるなど、十分な成果に繋げることができなかった。それでも、カナダ国内の関連施設の現状を把握し、また、関連する米国シアトル市の移民コミュニティとの関連を調査するなど、今後の研究への端緒を開くことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前期カナダの日本人移民に関する研究は、第二次世界大戦時における強制移住に伴う歴史の切断によって、限られた資料と聞き取り調査のみによって行われてきた。本研究は、唯一現存するエスニック新聞『大陸日報』を、読者論・読書論といった文学研究の方法を用いて読み解くことで、従来の日系カナダ移民史研究とは異なった独自のアプローチをおこなった。カナダ社会および母国日本に対する「移民読者」のまなざしを捉えることは、日系カナダ移民史のみならず、外地の日本人コミュニティにおける言語メディアの果たした機能の解明につながるはずである。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to explore a new research in the history of Japanese Canadian immigration through the analysis of materials using literary research methods. It combined an examination of literature-related articles from the prewar Canadian daily ethnic newspaper, Tairiku Nippo, with a survey of the Japanese Canadian immigrant community during the same period. While we made some progress in researching and analyzing the articles in Tairiku Nippo, our efforts were hindered by the aftermath of the COVID-19 pandemic, which led to the interruption of our field research and forced us to cancel our planned workshops and other activities. Nonetheless, we gained insights into the current status of related facilities in Canada and investigated their relationship with the immigrant community in Seattle, USA.

研究分野：日本文学

キーワード：日系移民 カナダ 日本語文学 メディア 大陸日報 外地 日本語環境

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

カナダにおける日系移民史の調査・研究は、戦前までに出版された日本語文献資料の調査・収集や、日系カナダ人一世および二世への聞き取り調査を中心に進められてきた。それらの成果を概観すると、戦前の日系カナダ人コミュニティと同時代の日本国内の社会・文化状況との間に、明確な近接性と連続性を認めることができる。移民地においては、日本近代の側面があるレベルで純化され投影されているといってもよいほどである。しかし、現在のカナダ社会における日系カナダ人コミュニティの様態は、戦前期とはまったく異質のものとなっている。日本の対米戦争がもたらした歴史的切断がその要因である。戦中の財産没収と収容所への移動から戦後処理にかけて、日系カナダ人が多大な損害を受けたことは言うまでもないが、この出来事は、コミュニティそのものの崩壊のみならず、戦前期に多く出版された日本語文献の喪失をも招いた事態であった。現在、日系カナダ人移民史を捉えようとするとき、基礎となる文献資料は非常に限られたものであるといわざるを得ない状況である。

2. 研究の目的

本研究は、カナダの日系移民コミュニティにおいて1907年から1941年まで刊行されていた、日刊エスニック新聞『大陸日報』の文芸関連記事を中心に読み解くことで、戦前期カナダの日本人社会の様態を分析研究し、合わせて、同時期の日系カナダ人(移民一世および二世)をとりまく言語・社会・文化環境を調査しその内実を明らかにすることを目的とする。当時の日系カナダ人を、日本語文学・記事の「読者」と位置づけ、文学研究で培われた読者論・読書論の方法を用いて、従来の日系カナダ移民史研究では明らかにしきれなかった領域にアプローチするとともに、隣接するアメリカ合衆国やアジア地域などの植民地・移民地を「日本語文学の“読者”が存在した地域」として捉え直すための方法を提示し、日本近代の新たな側面を照射する契機とした。

3. 研究の方法

本研究は、文献資料や聞き取り調査に裏打ちされた歴史研究の成果をふまえながら、移民地で文学作品がどのように書かれ、読まれたのかについて、書き手と読み手の双方向からの検討を進める。日系カナダ移民史研究における資料不足を補うのみならず、具体的な文学作品の言説分析を行いつつ、併せて当時の日系コミュニティにおける読書環境の調査を進めることで、それらがどのように読まれる可能性を持つものだったのか、読み手が書き手の意図や期待から逸脱する様まで含めて、読むという行為を通して見えてくるダイナミックな様態を捉えることが可能となろう。

(1)『大陸日報』の文芸記事を抽出しデータベースを完成させる。また、具体的な文芸関連記事を取り上げ、通史の見地からその位置を捉えるとともに、読者論・読書論の方法論を用いて分析し、読者(日系カナダ移民)の読書行為をふまえた特質を明らかにする。

(2)戦前期の日系カナダ人コミュニティにおける読書環境の調査について、戦前に営まれていた書店やコミュニティに存在していた晩香坡日本文庫の戦前・戦中・戦後の状況などに注目して、調査を進める。ここから、日系カナダ移民一世から二世への日本語および日本語文学の伝播の様態を捉える。

(3)日系人コミュニティについて、バンクーバーのパウエル街だけではなく、ブリティッシュ・コロンビア州の各地に点在していたコミュニティや、戦中に強制移住させられていた収容所に関しても調査を進める。また、それら各地に残る資料館、博物館などの現状についての調査も行う。以上のカナダ国内に留まらず、カナダの移民地と人の移動や物流の点で関係の深かったアメリカ、シアトル市の日系移民コミュニティについても、現状把握と資料等の調査を行う。

4. 研究成果

研究成果については、(1)『大陸日報』の記事に関する調査・分析、および、(2)北米の現地へ赴いての調査に関する内容に分けて、年度を追って記述する。

(1)『大陸日報』掲載記事については、2017年度から、文芸関連記事の抽出とデータベース化の作業を進めた。2017~2019年度は、朝日新聞記者であり作家・翻訳家でもあった鈴木悦(1886~1933)が主筆を務めた時代(1918~1924)にスポットを当て、この時代の誌面内容および構成の変化について検討を重ねた。この研究の結果、第一次世界大戦後における日本の国際的位置が、移民地であるカナダにおける日系人コミュニティをとりまく状況に著しい影響を与えていたことが判った。そこで、第一次世界大戦におけるカナダの参戦状況や、日本の立場に関するカナダからの視点を把握し、その際の日系コミュニティの動向について、『大陸日報』の記事を精読するとともに、国内の報道の状況との比較も行った。さらに、2019年2~3月には、オタワ市のカナダ国立戦争博物館およびカナダ国立図書館・文書館、トロント市のトロント日系文化会館などの関連施設において資料収集を行った。おもに、第一次世界大戦前後にターゲットを絞って、『大陸日報』掲載記事と英文資料とをつき合わせる作業を進めた。さらに、2019年11月には、フラ

ンスのソナム県(アルベール市、ペロンヌ市)およびパ＝ド＝カレー県(アラス市、ヴィミー市)で、第一次世界大戦期に関わる博物館および戦跡、資料館等の現状視察と資料調査を行い、カナダから派遣された日本人義勇兵の従軍地域の実態を調査した。2020年3月には研究成果の一部を資料紹介と論考「鈴木悦「悪魔と其の弟子」解題と本文 カナダの日本語新聞『大陸日報』社説欄に載った戯曲」にまとめた。2020年度以降は、引き続き『大陸日報』の文芸関連記事の精読と分析を進め、おもに、鈴木悦主筆時代に、妻であった作家・田村俊子(1888～1945)が関わった状況を、同時期の『大陸日報』婦人欄の記事等から捉えられないか検討するとともに、この時期以後の連載小説の特徴について考察を重ねた。

新型コロナウイルス感染拡大によって研究を進めにくい状況となったが、2022年度までに1930年以前までの記事の抽出を終え、おもに第一次大戦後の国際状況と関連づけたカナダ日系コミュニティの状況を把握するとともに、それらを映し出している一般記事に対して、文芸記事を読みあわせた分析を進めた。

(2) 戦前期の日系カナダ人コミュニティについて、直接現地に赴いて資料調査等を進めた。

2017年度は、9月にバンクーバー市において、国立日系カナダ人博物館およびバンクーバー市立図書館をはじめとする関連施設での資料調査と収集をおこなった。戦前期の日系人コミュニティの生活状況および読書環境を知るための、資料整備等の現状を知ることが主な目的となった。また、バンクーバー市からはなれて、バンクーバー島の旧炭坑街、カンバーランドを訪問、関連施設の視察等を行い、資料と現状を比較調査した。この折の調査は、翌2018年度に、河原典史編『カナダ日本人移民の子供たち 東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖』(三人社)の新刊紹介記事に反映させた。

2018年度は、4～5月にバンクーバー市において、前年度に引き続いて国立日系カナダ人博物館での資料調査を進め、また、ガルフ・オブ・ジョージア缶詰工場歴史資料館などを訪問して現地調査を行うとともに、バンクーバー市立図書館で英文資料の閲覧と収集を行った。その成果の一端は、10月に専修大学での招聘講演「戦前期カナダ日系移民の文学環境について」において発表した。

2019年度は、8～9月にブリティッシュコロンビア州の広範囲にわたる第二次大戦期の旧日系人収容地区(内陸部のホープ、グリーンウッド、スローカン、ニューデンバー、カスロー等各都市、および、その他の旧収容地)の博物館・資料館における資料整備およびカナダ社会に対する公開状況などの現状調査を行うとともに、戦前期の日系移民旧居住地(内陸部のメイプルリッジ、ミッション、バンクーバー島のトフィーノ、キャンベルリバー、ポートアルバーニ、ポートハーディ、ポートアリス等各都市)の調査、およびバンクーバー市内の関連施設(バンクーバー市立図書館、バンクーバー日本語学校、ジョイ・コガワ歴史ハウス)を訪問、資料調査収集とともにバンクーバー日本語学校校長およびジョイ・コガワ歴史ハウスのディレクターへの聞き取り調査と今後の研究の打ち合わせを行うなど、翌年度以降の公開研究ワークショップ開催の準備を進めた。さらに、2月末にはバンクーバーとトロントでワークショップ開催に向けた研究打ち合わせを行う予定であったが、この時期に発生した新型コロナウイルス感染拡大により、ワークショップは中止せざるを得ない事態となり、また、現地調査も2020～2021年度は全く行えない状況となった。

2022年度は、9月にカナダ現地に赴き、新型コロナウイルス感染拡大状況で頓挫していたカナダ国内での資料調査、研究打ち合わせ、ワークショップ開催などの計画をもとの計画に戻すべく努めたが、現地での協力者との連携が滞ってしまい、資料調査のための関連施設の現状把握を行うところまでとなってしまった。

2023年度も前年に続けて9月にバンクーバー市での資料調査と国立日系カナダ人博物館古文書担当者との研究打ち合わせを行った。また、北米西海岸地域の日系移民の動向およびカナダ移民との関連を調査するため、アメリカ合衆国シアトル市での調査を行った。主な訪問先と用務は、ウィングルーク博物館および旧日本町での現地調査、ワシントン大学図書館での資料調査と日本語文学・移民史研究専門家との研究打ち合わせ、ワシントン州日本文化会館での資料調査および日系紙『北米時事』関係者への聞き取り、移民関連資料・文書保存担当者への聞き取りであった。

研究期間の当初に計画していたカナダ(トロント、バンクーバー)での研究ワークショップについては、新型コロナウイルス感染拡大が原因で、現地関係者や施設との調節がつかず、開催を見送らざるを得ないこととなった。しかし、上記のような調査を経て、本研究課題期間終了後も、継続して研究を進めるための端緒を開くことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 日高佳紀	4. 巻 43
2. 論文標題 「鈴木悦「悪魔と其の弟子」解題と本文 カナダの日本語新聞『大陸日報』社説欄に載った戯曲」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良教育大学国文 研究と教育	6. 最初と最後の頁 51-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日高佳紀	4. 巻 24
2. 論文標題 新刊紹介・河原典史編『カナダ日本人移民の子供たち 東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖』（三人社刊）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

〔図書〕 計2件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------